



令和6年能登半島地震で、被害に遭われた皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

保健師職能だよりでは看護協会での活動内容や保健師活動の様子などを取り上げ、課題等を発信することで所属を超えて学び、つながり、保健師活動の専門性の発揮や向上に努めています。

2024年度もどうぞよろしくお願い致します。

## 保健師職能交流会が開催されました 2024.1.11(木)

<参加者 48名>

### 「職場でのジェネレーションギャップとは？」

～世代ごとの特徴を学びコミュニケーションに活かそう～

講師に順天堂大学大学院医療看護学研究科 種市 ひろみ教授をお迎えして、世代ごとの特徴からスムーズなコミュニケーションのとりかたなどについて学びました。

#### <参加者の感想>

- ・普段、業務の中で感じていることがそのまま研修のお話で沢山出てきてとても興味深く講義を受けさせていただきました。
- ・ゆとり教育の推進やリアルな経験の不足等が若者の特性に影響していることが理解できました。具体的なコミュニケーション法が紹介されましたが、若者世代だけでなく活用できると思いました。
- ・職場間でのジェネレーションギャップはそれぞれの背景により仕方がないものだが、適切な対応方法があり、それを学ぶことができて良かった。

## 4職能合同集会在開催されます

日時: 令和5年6月22日(木) 14:00～16:00

場所: TKP 東京ベイ幕張ホール(〒261-0021 千葉市美浜区ひび野 2-3)

参加費: 無料

毎年、各職能ごと(保健師・助産師・看護師Ⅰ・看護師Ⅱ)に分かれて行われていた職能集会ですが2024年度は4職能合同開催が決定しました!地域共生社会について学び、4職能それぞれの役割を考える機会となればと思います。



『地域共生社会における看護職の役割について考える』講師: 岩名 礼介 先生 (三菱 UFJ

リサーチ&コンサルティング株式会社政策研究事業本部 社会政策部 主席研究員/中央大学客員教授)

看護協会への新規入会者を募集しています!

<保健師職能集会および入会の問い合わせ先 >

公益社団法人 千葉県看護協会

電話 043-245-1744 FAX 043-248-7246 千葉県看護協会HP→



## 保健師活動報告 お仕事教えてください



私の職場を紹介します ～『こども家庭センター』を設置して～

君津市健康こども部こども家庭センター

鈴木 郁子

私が勤務する君津市こども家庭センターは、東西に広がる県内2位の面積をもつ君津市の西端にあり、東端の家庭訪問には往復2時間100kmの走行距離にもなる海と山に囲まれた自然あふれる地域です。高齢化が進む一方で令和4年統計では合計特殊出生率は1.23と全国水準を下回り、出生数は415人となっています。

君津市では、母子保健分野における「子育て世代包括支援センター」と、児童福祉分野における「こども家庭総合支援拠点」を共に直営で設置し、違う部署の異なる機関が連携を密に活動してきました。相談業務を拡充する中で、児童虐待担当の連携強化のため児童福祉部門に保健師を配置したり、妊娠から産後にかけての関わりをより厚くするため包括支援センターに助産師を正職員として採用する等、体制強化を進めてきました。一方で、両機関が行う業務や機能には一定の重なりがあるにも関わらず、根拠法律や組織が別であるために連携・協働に負荷が生じたり、情報共有が円滑になされない等、様々な課題を感じていました。

そのような中、令和4年6月の改正児童福祉法により、両機関の意義や機能を維持した上で組織を見直し、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもへ一体的に相談支援を行う機関として『こども家庭センター』の設置に努めることとなりました。

君津市としては、課題解決と更なる相談支援体制の強化・拡充を進めるチャンスと捉え、組織再編により両機関を統合し、令和6年4月の法施行よりも1年前倒しで、令和5年度に『君津市こども家庭センターつみき』を設置しました。保健師・助産師・社会福祉士・保育士・各支援員相談員・事務職及び他課と兼務で管理栄養士や歯科衛生士等がチームとなって活動しています。

一体的な組織となり、情報共有は円滑になった一方で、これまで以上にきめ細かな支援をするからこそ、更に多くの問題が見え、早急な対応が必要となるケースも増えています。想定内ではありますが、改めて母子保健と児童福祉の役割を再確認し、機能を有効に発揮できる体制づくりと共に職員の心身の健康管理が重要であると感じています。

私の職場は「維持ではなく、今よりも良く！」という意識が高く、日々の活動や事業の分析から日常的に意見が交わされる中、上司にも理解が得られた新たな試みがいくつか実現しています。そのひとつとして、年々増加傾向である子どもの発達に関する相談に対し、令和6年度は新たに正規職員として臨床心理士を配置することが決まりました。「こども家庭センターつみき」が安心して相談いただける総合的な窓口となり、切れ目なく親子を支援していくために組織としての新たな仕組みづくりを行い、軌道にのせていくことがこれからの目標です。

「こども家庭センターつみき」が子育て世代にとって身近な存在であり、「君津で良かった！」と感じていただけるよう、今後も多職種で力を合わせ、「思い」を持って活動していきたいと思います。

(筆者：写真前列右)

